



第14回（2011年度）大会プログラム

日時 2010年12月3日（土）／12月4日（日）

会場 京都外国語大学 1号館

〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6

Tel : (075) 322-6012

大学HP : <http://www.kufs.ac.jp/>

アクセス : <http://www.kufs.ac.jp/aboutkufs/campus/access/index.html>

(1) 阪急電車「西院駅」から、西へ徒歩約15分

または、「西大路四条（西院）」から市バス3・8・28・29・67・69・71に乗車、「京都外大前」で下車（乗車時間約5分）

(2) JR「京都駅」

烏丸口から：市バス28に乗車、「京都外大前」で下車（乗車時間約30分）

または、京都バス81・83に乗車、「京都外大前」で下車（乗車時間約30分）

八条口から：市バス71に乗車、「京都外大前」で下車（乗車時間約30分）

(3) 地下鉄東西線「太秦天神川駅」から、南へ徒歩約13分

大会スケジュール（要旨）・会場案内

3日（土）

10:00～ 特別シンポジウム
12:20～ 大会受付
13:05～ 総会
13:35～ 研究発表・ワークショップ
16:20～ 特別講演 (Prof. John Du Bois)
18:30～ 懇親会

4日（日）

10:00～ 研究発表・ワークショップ
12:25～ ポスター発表
14:30～ シンポジウム
17:00～ 閉会式

大会受付 1号館 5階ロビー（初日 12:20 ～ 大会終了まで）

書籍展示 1号館 5階EVホール

休息室 1号館 157教室

大会本部 1号館 133教室

昼食場所 当日配布のランチマップをご覧ください。

また、お弁当をご持参の場合は、休息室（1号館157教室）をご利用ください。

12月3日(土曜日)

特別シンポジウム(10:00~12:00) [1号館 151教室] 日本語発表

テーマ:「災害とコミュニケーション」

司会: 森山卓郎(京都教育大学)

- 1) 言葉は失われたのか — 「語る」ということをどう考えるか—
講師: 名嶋義直(東北大学)
- 2) 情報の信頼性判断を支援する言語処理技術
講師: 河原大輔(京都大学)
- 3) 東日本大震災に見るリスク・コミュニケーションの問題
講師: 吉川肇子(慶応義塾大学)

総会(13:05~13:25) [1号館 151教室]

司会: 田中廣明(事務局長)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 会長挨拶 | 山梨正明(京都大学) |
| 2. 会計報告 | 高木佐知子(大阪府立大学) |
| 3. 編集委員会報告 | 林宅男(桃山学院大学) |
| 4. 次期会長候補者について | 山梨正明(京都大学) |
| 5. 事務局長報告 | 田中廣明(京都工芸繊維大学) |

研究発表(13:35~16:00) [1号館]

1室 [1号館 151教室] 日本語発表

- ① 13:35-14:10 ② 14:10-14:45 ③ 14:50-15:25 ④ 15:25-16:00

司会: 鍋島弘治朗(関西大学)

1. 語用論的観点からみる縮約表現の一考察 —ポライトネスを反映する“チャウ”を事例に—
張又華(京都大学(院))
2. 存在表現の適用 —「やる」と「売る」の自動詞用法—
大西美穂(名古屋大学(院))
3. 若者ことばにおける「盛る(もる)」の意味拡張
神澤克徳(京都大学(院))

2室 [1号館 152教室] 英語発表

- ① 13:35-14:10 ② 14:10-14:45 ③ 14:50-15:25 ④ 15:25-16:00

Chair: TAMAOKA, Katsuo (Nagoya University)

1. 'Mummy, I really, really saw a ghost in the school toilet!' A study of children's pragmatic competence and evaluation of persuasive discourse
Dawn Teo Siew Hui (National University of Singapore)
2. Identity in practice: the use of terminological resources and identity formation at conversation analytic data sessions in Japan
BUSHNELL, Cade (University of Tsukuba)

Chair: NISHIKAWA, Mayumi (Setsunan University)

3. Okay in the pre-second position in Q&A sessions of international scientific conference presentations
OKADA, Yusuke (Ritsumeikan University)
4. Metalinguistic Negation in Dhaasanac NISHIGUCHI, Sumiyo (Tokyo University of Science)

3室 [1号館 153教室] 日本語発表

- ① 13:35-14:10 ② 14:10-14:45 ③ 14:50-15:25 ④ 15:25-16:00

司会：本多 啓 (神戸市外国語大学)

1. 自分と自己
汪 宇 (東京福祉大学)
2. 話し手が自分自身を you で語ることの意味
中山 仁 (福島県立医科大学)
3. 未来パーフェクトのシテイルが表す、聞き手への配慮について
上原由美子 (神田外語大学)

4室 [1号館 154教室] 日本語発表

- ① 13:35-14:10 ② 14:10-14:45 ③ 14:50-15:25 ④ 15:25-16:00

司会：内田聖二 (奈良女子大学)

1. 法副詞 no doubt の用法
岡本芳和 (金沢星稜大学)
2. no doubt の談話機能に関する実験的調査
鈴木大介 (京都大学 (院) / 日本学術振興会) ・ 藤原 崇 (近畿大学 (非))

司会：金澤俊吾 (高知県立大学)

3. opposite の意味論と関数的解釈
黒川尚彦 (大阪工業大学)
4. 日本語の接続助詞「と」とインドネシア語の接続詞 *beginu, ketika, kalau* —用法の対照とテーマ・レーマの考察—
IKHTIARI, Tiwuk (京都大学 (院))

ワークショップ (13:35~15:15) [1号館 143教室]

メディア・ディスコースにおける「らしさ」の表象 —キャリアウーマン、草食男子、父親・母親をめぐって—
司会：高木佐知子 (大阪府立大学)

1. 「男らしさ」の危機か —ブログに見る「草食男子」への評価— 神田靖子 (大阪学院大学)
2. 日本の両親向け育児雑誌における父親らしさ・母親らしさの表象
稲永知世 (北陸大学 (非))
3. 働く女性と「女らしさ」—日本のキャリアウーマン雑誌の談話分析—
高木佐知子 (大阪府立大学)

Plenary Lecture (16:20~18:20) [1号館 151教室]

Chair: Ryoko Suzuki (Keio University) (鈴木亮子 (慶應義塾大学))

Lecturer: **John W. DU BOIS** (University of California, Santa Barbara)

Empathy for syntax

懇親会（18：30～）

会場：11号館 2階ラウンジ

会費：4,000円

（交流と議論の場です。お一人でもご遠慮なく。）



12月4日（日曜日）

研究発表（10:00～12:25） [第1学舎 5号館]

5室 [1号館 151教室] 日本語発表

- ① 10:00-10:35 ② 10:35-11:10 ③ 11:15-11:50 ④ 11:50-12:25

司会：黒田 航（早稲田大学）

1. 主題非明示型結果構文の主語名詞句に関する意味的・語用論的制約について
対馬康博（札幌大学）
2. 英語連結的知覚動詞構文の補文分布への意味論的アプローチ：属性・状態叙述の違いに着目して
中村文紀（慶応義塾大学（院））

司会：山口治彦（神戸市外国語大学）

3. ダイクシスにおける直示中心の階層スケールと語用論 澤田 淳（関西外国語大学）
4. 推論による不定指示について —日本語のソ系指示詞の解釈—
杉山さやか（京都大学（院））

6室 [1号館 152教室] 英語発表（前半）&日本語発表（後半）

- ① 10:00-10:35 ② 10:35-11:10 ③ 11:15-11:50 ④ 11:50-12:25

Chair: SUGA, Ayumi (Nara Women's University)

1. Mental causality in BECAUSE/SINCE/IF clauses: A case study of grammar-pragmatics interface
KATAOKA, Hirohito (Osaka Dental University)
2. Allo-repetition to develop the story: From storytellers to story-recipients in English narratives
UCHIDA, Lala (Tokyo Denki University)

司会：岡本雅史（清泉女子大学）

3. 中国語の物語における文脈指示詞「这」と「那」について—談話内部の四層構造の観点から—
劉 轟（京都大学（院）／日本学術振興会）
4. 「古池やかわず飛び込む水の音」の英訳における解釈のプロセス —より良い俳句の英訳は存在するのか—
石丸雄介（百合学院（非））

7室 [1号館 153教室] 日本語発表

- ① 10:00-10:35 ② 10:35-11:10 ③ 11:15-11:50 ④ 11:50-12:25

司会：吉成祐子（岐阜大学）

1. マスメディアの科学ディスコースを通じた数の認識 —メタファー的思考に着目して—
出口由美（関西大学（院））
2. 緊急事態と非常事態における情報伝達—関連性理論におけるコミュニケーションの効率性—
新井恭子（東洋大学）
3. 直接話法を導く談話標識の解釈的用法
今野昌俊（東北大学（院））

8室 [1号館 154教室] 英語発表

- ① 10:00-10:35 ② 10:35-11:10 ③ 11:15-11:50 ④ 11:50-12:25

Chair: MURATA, Kazuyo (Ryukoku University)

1. Language and power in the blogs of freshman students of MSU-IIT: a critical discourse analysis
POLITO, Rabindranath (Mindanao State University–Iligan Institute of Technology)
2. Metaphorical promising: Joint construction of political speech
NILEP, Chad (Nagoya University)

Chair: NISHIDA, Koichi (Tohoku University)

3. Modal concord in Japanese: Some initial observations LARM, Lars (Lund University)
4. Addressing syntactic issues semantically/pragmatically: A case study of island-(in)sensitivity in Japanese cleft constructions SERAKU, Tohru (University of Oxford)

ポスター発表（12:25～14:20） [1号館]

ポスター1室 [1号館 144教室]

1. has gone と is gone の出現環境と意味の動機 岩田真紀（京都大学（院））
2. 対話の参与者間における言語的響鳴と連鎖 伊澤宜仁（慶應義塾大学（院））
3. 「共話」の観点からみたマレーシア語母語話者のあいづち分析
勝田順子（名古屋大学（院））

ポスター2室 [1号館 145教室]

1. 介護現場における入浴場面での介助者と利用者との関係構築 —スピーチレベル・シフトとポジティブ・ポライトネス・ストラテジーからの考察—
古田朋子（名古屋大学（院））・堀江 薫（名古屋大学）
2. 場所句倒置構文の適格性について 大川裕也（札幌大学）
3. なぜ、従属節否定よりも主節否定（否定辞繰り上げ文）の方が多用されるのか？
森 貞（福井工業高等専門学校）

ポスター3室 [1号館 155教室]

1. 「エコ」はよいこと? 一批判的談話分析の立場から— 中野阿佐子 (関西大学 (院))
2. What do Japanese honorifics convey? –A Relevance-based approach
KOIZUMI, Yuko (Tokyo University of Marine Science and Technology (非))
3. 共同行為としての会話における「潜在」と「不在」
岡本雅史 (清泉女子大学) ・榎本美香 (東京工科大学)

ポスター4室 [1号館 156教室]

1. Tone-of-voice in Japanese CAMPANA, Mark (Kobe City University of Foreign Studies)
2. The meaning of the diminutive shift in Japanese: Its dimensionality, regularity and pragmatic effect
SAWADA, Osamu (Mie University)
3. 誤伝達：概念構造とプロトタイプ 井筒勝信 (北海道教育大学) ・井筒美津子 (藤女子大学)
4. 「名詞句からの外置に関わる制約」と「指示」の関係について 中田智也 (京都大学 (院))

シンポジウム (14:30~17:00) [1号館 151教室] 英語発表

Aspects of Meaning in Discourse: Towards Interdisciplinary Pragmatic Research

Chair : Lawrence Schourup (Osaka Prefecture University)

Designated Discussant : John Du Bois (University of California, Santa Barbara)

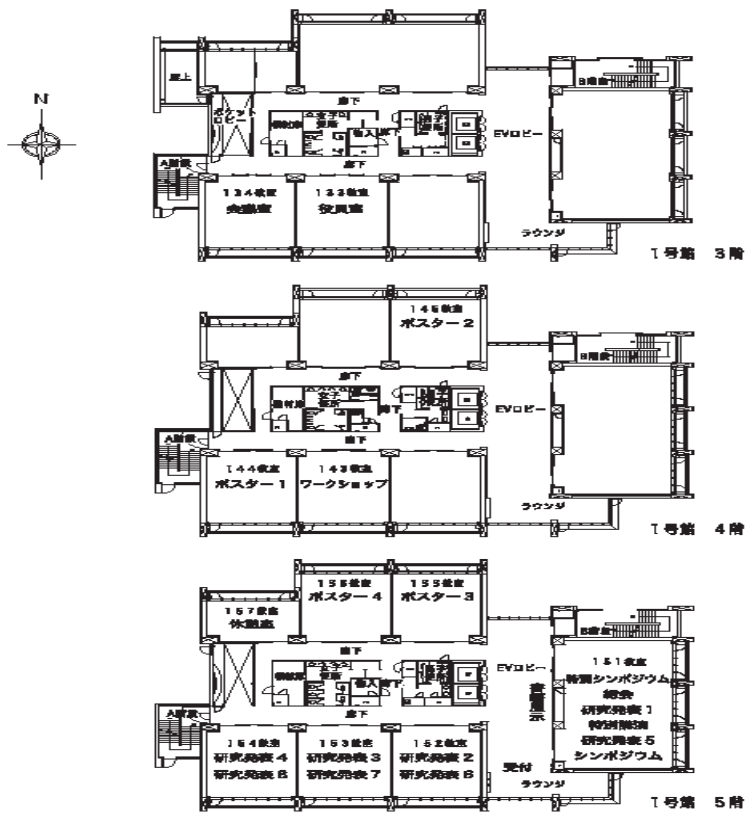
- 1) Embodied action in interaction: A conversation analytic approach to action-formation
Aug Nishizaka (Meiji Gakuin University) (西阪仰 (明治学院大学))
- 2) "Trading places" and intersubjective understanding of spatial perspectives
Kuniyoshi Kataoka (Aichi University) (片岡邦好 (愛知大学))
- 3) Utterances in real time: Where interaction and cognition meet
Yasuharu Den (Chiba University) (伝康晴 (千葉大学))

閉会式 (17:00~) [1号館 151教室]

閉会の挨拶

山梨正明 (京都大学) ・久保 進 (松山大学)

会場マップ



キャンパスマップ



